

(口絵解説)

花の病害虫 (16) ——スターチス——

スターチス (*Statice*) は、150種以上ある *Limonium* 属植物の旧属名である。園芸的には、1・2年草とされる *L. sinuatum* をスターチスと称し、20種ほどの宿根性の園芸種あるいは種間雑種を、リモニウムないし宿根リモニウムと称している。近年、装飾の多様化の中で、宿根カスミソウと並んでバックグラウンドを彩るのに適した花きとして、ディスプレイや花束には欠かせない素材の一つとなっている。施設栽培が主で、生産規模はおよそ400 haと推定され、毎年、伸び率が110%を下回ったことがない人気作物である。

L. sinuatum は20数年前には紫色の品種しかなかったが、現在では育種により赤、ピンクや黄色と多彩となった。従来、露地で栽培され、5月に出荷されていたが、近年、夏期冷房育苗技術の完成により、年内出荷も可能になった。一方、宿根リモニウムは、我が国で種間交雑育種が20年ほど前から始まり、10年ほど前から多くの品種(ハイブリッドリモニウム)が発表され、育種ではトルコギキョウと並んで他国をリードしている。特にブルーファンタジア、ミスティブルー、サンピエールなどの品種は花色、スタイルに優れ、消費拡大の引き金にもなった。

病害では、センチュウによる被害を含めて13の病害が知られ、海外ではさらに多くの病害が発生している。また、虫害では、生育中～後期にハダニ、ワタアブラムシ、コナカイガラムシ類、ヨトウガなどによる被害が認められる。ここでは、特に病害について解説する。

1 モザイク病

葉や花茎が萎縮したり、えそを生じる。数種のウイルスが知られているが、キュウリモザイクウイルス(CMV)による被害が多い。防除法は、①育苗時期は寒冷紗で被覆して、アブラムシによる伝播を防ぐ。②定植後は光反射マルチを利用する。

2 萎ちょう細菌病

罹病株は初め下葉が萎ちょうし、やがてその半葉が黄化するとともに、一部の葉脈が赤くなり、地際部の維管束が褐変する。*Pseudomonas caryophylli* による病害で、カーネーション萎ちょう細菌病と同じ病原菌である。高温でよく増殖する細菌であることから、促成栽培が行われるようになり、定植時期が従来(10月)よりも前進(8月～9月)したために顕在化した病害であろう。定植時期が早いと激しく発病する傾向があり、9月中旬以降

に定植した場合には発病は少なくなる。育苗中にも発生し、汚染苗を本圃に持ち込むこともある。*L. sinuatum* が激しく発病するが、他の宿根リモニウム類は耐病性が認められる。防除はカーネーション萎ちょう細菌病に準じて行う。

3 灰色かび病

野菜の灰色かび病と同じ *Botrytis cinerea* による病害である。*L. sinuatum* では防除といえばこの病害の防除を指すほど厄介で苦勞する病害である。花器、花茎、葉、株元に発生する。切花が市場や店舗に搬入された後に発生することもある。防除法は、①過湿を避ける。灌水に注意し、圃場全面にマルチをして、過湿条件が続く時期は加温を行って湿度を下げる。また、下葉に発生しやすいので、過繁茂を避けて、下葉を摘除する。過剰な施肥は過繁茂になりやすいので避ける。②3剤の適用があるが、ジェットフェンカルブ剤などの適用拡大が望まれる。

4 褐斑病

葉、茎及び花茎の翼に発生する。葉では下葉から発生し、周辺部は黄褐～紫赤色、内部は灰褐色で、2～5 mmの病斑になる。*Cercospora insulana* による病害である。防除法は、①残渣は集めて燃やしてしまう。②2～3月に施設内が比較的高温や過湿になると多発するので、換気に心掛ける。③チオファネートメチルまたはマンネブ剤で防除効果が認められた成績がある。

5 炭そ病

Colletotrichum gloeosporioides による病害で、特に宿根リモニウム類で多発する。病斑は葉、花茎に発生し、褐色の小斑点を生じ、病斑はしだいに拡大して直径5～8 mmの円形または不正だ円形となる。病斑上の分生子層が小黒点として観察される。夏～秋の高温期に多発する。防除法は、①被害葉は摘除し焼却する。②雨よけの効果が高い。③チオファネートメチルまたはマンネブ剤で防除効果が認められた成績がある。

その他の病害

Rhizoctonia solani AG-4による株腐病がある。育苗期や定植後早い時期に立ち枯れることが多い。

最近、宿根リモニウムで二つの新しい病害が発生した。一つは千葉県で発生した *Phytophthora nicotianae* による疫病で、根や地際部が腐敗し、地上部が急激に萎ちょう枯死する。過湿になるハウスで発生しやすい。もう一つは岡山県で発生した *Phomopsis* sp. による褐紋病である。茎葉に発生し、炭そ病や褐斑病に類似する病害である。発生が激しいと株全体が枯死する場合がある。

(千葉県暖地園芸試験場 植松清次)